



京ヶ峰の四季

第47号

2014年 夏号



初夏の京ヶ峰

昭和43年に当院へ入職して、早46年が過ぎました。この間の医療、特に精神科医療をとりまく環境は大きく変化してきました。

思い起こしてみますと、この40余年間、院長の命を受け、当院の理念である「一人ひとりの患者さまの幸せのために」出来ることを、時代に合わせてコツコツと積み重ねてきたように思います。

院長の高い理想と医療経済との狭間での悩みに対して、常に院長の理想にブレーキをかけてきたような気がして大変申し訳なく思っています。一方、院長の理想を実現するためのお手伝いが少しは出来たのではないかと、自分の中では思っています。

昭和50年代後半から平成初期にかけて超過入院の解消による患者さまのアメニティーの充実、絶対数が不足している医療従事者の充足等、医療費抑制策の中で行ってきました。勿論このことは、院長はじめ、歴代の総師長、多くの職員の努力あってのものであり、当院職員の結束力の賜だと感謝しています。また、患者さまの社会復帰を促進するため、マンパワーの充実、各種施設の整備等も行うことができました。

近年では、医師・看護師等の充足が進んだこともあり、地域のニーズでもあった精神科救急医療のための施設整備も行いました。今後とも、地域に根ざした、信頼される病院であり続けたいと思っています。

医療経済を無視した国の施策に対しての不平・不満は多々ありますが、曲がりなりにも40年以上病院運営に携わってこられたことに感謝しています。

京ヶ峰岡田病院

事務長 安立 充史

基本理念

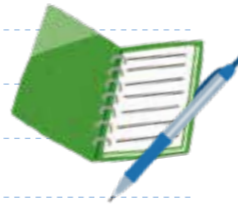
一人ひとりの患者さまの幸せのために
～ For the Patients ～



精神保健医療福祉情報



平成26年4月「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」改正で、医療保護入院者に『退院後生活環境相談員』が選任されることを前回の春号で紹介をしました。同様に精神療養病棟の入院患者(すべての入院形態)に対して退院に向けた相談支援業務等を行う『退院支援相談員』が配置されることが平成26年度診療報酬改定で追加されました。



① 退院後生活環境相談員

すべての医療保護入院者1人につき1人の退院後生活環境相談員(以下、生活環境相談員)が入院後7日以内に選任されることとなります。配置としては、生活環境相談員1人が概ね50人以下の医療保護



入院者を担当することとなります。生活環境相談員の業務内容としては、①入院時の説明(相談員として選任されたこと及びその役割、医療保護入院者退院支援委員会への出席など)、②退院に向けた相談支援業務、③地域援助事業者等の紹介に関する業務(必要に応じて地域援助事業者を紹介)、④医療保護入院者退院支援委員会に関する業務となっています。

② 退院支援相談員

精神療養病棟へ新規で入院となった入院患者(すべての入院形態)もしくは転棟してきた入院患者に対して、7日以内に選任されることとなります。退院に向けた相談支援業務を行う者であり、1人の退院支援相談員が同時に担当する患者の数は60人以下

となり、退院支援相談員が担当する入院患者の一覧を作成することとなっています。退院支援相談員の業務内容としては、①退院に向けた相談支援業務、②退院支援委員会(当該患者1人につき月1回以上行うこと)に関する業務、③退院調整に関する業務となっています。

いずれも可能な限り早期に退院ができるよう、個々の退院支援のための取り組みにおいて中心的役割を果たすことが求められています。退院に向けた取り組みにあたっては、医師の指導を受けつつ、多職種連携のための調整を図ることに努めるとともに、院外の関係機関との調整にも努めることとなります。

当院では精神保健福祉士が所属するPSW部が中心となって業務を遂行しています。何かご不明な点などありましたら、ご相談ください。



病院TOPICS

平成二十六年春の叙勲にて、当院院長の岡田庸男が瑞宝中綬章を受章いたしましたので、ご報告申し上げます。

「岡田院長よりごあいさつ」

平成二十六年の春の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝中綬章の栄に浴しました。
去る五月十四日、
総務大臣より勲記勲章の伝達を受け、
引き続き皇居へ参内し、
天皇陛下に拝謁を賜りました。
この荣誉もひとえに永年にわたり
ご厚情を賜っております
皆様方のご指導ご鞭撻の賜と
深く感謝申し上げます次第です。
今後はこの荣誉に恥じることのないよう
一層精進いたす所存でございますので、
何卒従前のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



京ヶ峰岡田病院
院長 岡田 庸男

7月4日(金)には、院内で受章祝賀会を開催いたしました。瑞宝中綬章とともに皇居で撮影された写真が飾られたホールで、職員一同で受章の喜びを分かち合いました。



栄養士から季節のおすすめ

クイズです。
夏野菜と言えば・・・?
さて、何を思い浮かべますか?

トマト、なす、きゅうり、ピーマン、とうもろこし、枝豆などたくさんありますが、コレも夏野菜です。緑色でゴツゴツした形、固い実を切ると中は鮮やかなオレンジ色。ホクホクした食感とやさしい甘さで人気の・・・



そう、「かぼちゃ」です!

冬至によく食べられることから冬野菜のイメージがありますが、旬は夏から秋にかけて。切らずに丸ごとなら、涼しく風通しが良いところで長期保存もできるため、収穫してから冬まで楽しむことができます。

その栄養は、カロテン、ビタミンC・E、食物繊維、カリウムなどが豊富。抗酸化作用があり、免疫力を高め、皮膚や粘膜を健康に保つ働きがあり、ガンの予防にも良いとされています。カロテンやビタミンEは油と一緒に食べると吸収率がガンとUP!天ぷらや炒めものに、また、最初に少し炒めてから煮物にするのも良いでしょう。栄養たっぷりのかぼちゃは日焼けや夏バテが気になるこの季節にもオススメです。



行事報告



5月13日(火)

希望会ソフトボール大会

第36回希望会ソフトボール大会が開催されました。当院からは15名の選手が出場し健闘しましたが、惜しくも1回戦で0対2と敗れてしまいました。



6月21日(土)

第14回全国障害者スポーツ大会 北信越・東海ブロック予選会 バレーボール競技(精神障害者の部)

岐阜県山県市総合体育館で東海北信越ソフトバレーボール大会が行われました。選手たちはチーム一丸となって戦いましたが、惜しくも1回戦で新潟県のチーム相手にセットカウント1-2で負けてしまいました。悔しさもありますが、攻め方や守り方について選手同士で話し合うなど充実した一日を過ごせました。



6月4日(水)

院内パターゴルフ大会

今年は涼しく過ごしやすい天気の中、約120名の参加者が選手としてプレーしました。ホールインワンが多く出るなどナイスショットが目立ち、会場では赤・黄・緑のボールの行方に歓声や選手の喜びの声が多く聞かれる大会となりました。



5月28日(水)



6月13日(金)

デイケア日帰り旅行

5月には愛知牧場とヤクルト工場へ、6月には名古屋港水族館へ出かけました。両日ともお天気に恵まれ、楽しく過ごすことができました。



6月18日(水)

北1病棟 行食事

カツカレー、シルバーサラダ(春雨サラダ)、抹茶プリン、コーヒー牛乳



4月26日(土)

葵1病棟 行食事

鯛粥、清汁、茶碗蒸し、南瓜コロッケ、菜の花辛子和え、煮物、ソースもんじゃ、三色ゼリー



6月25日(水)

希望会卓球大会

名古屋市・中村スポーツセンターにて開催されました。団体戦で出場するも、残念ながら1回戦で敗退してしまいました。



6月25日(水)～29日(日)

第9回京ヶ峰倶楽部展

今年のテーマは「きらきら」。手工芸・陶芸・絵画・書などの作品を展示し、4日間で582名もの多数のご来場をいただきました。誠にありがとうございました。

おすすめコーナー

池波正太郎作『真田太平記』

武田家滅亡から徳川2代将軍秀忠の時代までの間～いわゆる戦国の世の人々の生き様を、信州の小大名・真田家を中心に描いた歴史小説です。文庫本で12巻に及ぶ長編で、高校時代に初めて読み、20代の頃にゆかりの地を訪ねてみたり、恥ずかしながら、いまだに時々読み返したりしてしまうほど好きな作品なので、おすすめします。

「真田日本一の兵(ひのもといちのつわもの)」で有名な真田幸村(信繁)、その父の昌幸と、兄である信之を中心に物語は進んでいきますが、「草の者」と呼ばれる真田家の忍び、家臣やその家族たちはもちろん、他大名やその家臣たちまで、様々な人物の生き様がとても瑞々しく魅力的に描かれており、それぞれの登場人物に思い入れを持って読み進むことが出来ます。ちなみに、私のおすすめの人物は…あえて真田家以外から選ぶと、徳川四天王の一人・本多忠勝ですね。剛胆で義理堅いところに憧れてしまいます。

以前、NHKのドラマになったこともあるので、そちらでご存知の方も多いかと思いますが(このドラマも名作でした)。また、平成28年の大河ドラマでも真田家を取り上げられることが決まったそうです。今から楽しみです。

※次号のおすすめは、看護部の長坂さんが担当します。よろしくをお願いします。

総務部 大村



●編集後記

当院の院長が平成26年春の叙勲にて、瑞宝中綬章の受章をされ、私たち広報委員も大きな喜びと誇りを感じながら、編集作業を行いました。京ヶ峰の四季も47号となり、発行より11年の歴史を刻んで参りましたが、編集にも苦労しながら、一步一步良いものになるように努力しております。私たち職員も「一人ひとりの患者さまの幸せのために」という基本理念を原点にして、医療の質の向上を目指し続け、院長のように、素晴らしい歴史を残せる一人ひとりに成長して参ります。

広報委員 筒井